

2020年度 自己評価報告書 および 2021年度の取り組み

1. 学校の教育目標

京都芸術デザイン専門学校では、文藝復興を担う人間の育成という基本使命に基づき、「社会が真に欲する、より専門的で人間性のゆたかな人材を育成する」ことを教育目標として掲げている。素直さ・礼儀正しさ・社会規範、そして人の痛みが理解できる力を育むと共に、他者を受け入れ他者から受け入れていただく為のコミュニケーション力を身に付けさせるといった人間性の教育、そして、現場を見る・聴く・体験する事を通して、社会の課題や要望に応える事ができるデザインの力を習得させる事に努めている。

本校の教育目標の本質は、学生が、自分自身の未来を切り拓く勇気が持てるまでの本格的な専門技術力と人間力を身に付けさせることにある。その教育目標を実現する事が、社会や組織の活力となるような前向きにチャレンジし続ける人材や、付加価値を創造できる利益獲得型の人材を輩出することにつながり、我国の芸術文化の復興と発展に寄与する事ができると考えている。

2. 2020年度に定めた取り組み課題

- ・社会実装強化として、連携企業の拡充と効果的な授業手法を確立
- ・非常勤教員を巻き込み外部評価から見た指導課題を全教員で改善
- ・ビジュアルデザインコースに動画専攻開設
- ・キャラクターデザインコース開設
- ・キャリア教育に焦点を絞った全学共通プログラムの改訂
- ・シラバス改訂と採点基準の明確化による成績評価の平準化
- ・授業評価制度見直しと新制度の立案実施
- ・FD研修による専門教育の指導強化
- ・コース新設に向けた新規進学者層の獲得
- ・新規 Web コンテンツの導入による認知度向上と非接触来校者の増加
- ・京都芸術大学との連携強化による併願入試制度、併設校編入制度の導入

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価：適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

(1) 教育理念・目的・育成人材

評価項目	評価	取り組みの内容
理念・目的・育成人材像は定められているか	4	文藝復興を担う人間の育成という理念、人間教育の上に専門教育があるという価値観、社会が真に欲するより専門的で人間性のゆたかな人材を育成するという目標を明確に定め、実現に向けて努力している。
学校の特色は何か	4	強固な産学連携企業ネットワークをもつ京都唯一のデザイン総合校として、インターンシッププログラムや社会連携授業の拡充を推し進め、社会連携型教育を特色としている。
社会のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	コースごとの教育課程編成委員会及び社会連携展、日常的な社会連携授業における企業評価アンケート等により、社会が必要としている育成人材像を適切に把握し、将来構想に反映している。
教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	上記項目の記載内容を行うだけでなく、教育課程編成委員会にて外部委員から業界が必要とする人物像を聞き取り、カリキュラムと目標の方向付けを行っている。

2021 年度に向けての課題と改善の取り組み

- ・新型コロナウイルスによる企業ニーズの変化を外部評価によって把握、検証する
- ・学校の特色である社会連携による授業運営を拡充し、実践をすすめる

(2) 学校運営

評価項目	評価	取り組みの内容
目的に沿った運営方針が定められているか	4	平成 29 年度からの中期 5 ヵ年事業計画をもとに単年度ごとの事業計画を策定している。また、2022 年度からの新たな中期 5 ヵ年事業計画の策定をすすめている。
運営方針に沿った事業計画が定められているか	4	中期計画を元に重点課題を策定し、重点課題に沿って各部署が年度事業計画を策定している。各方針については定期的に会議で共有し、適切な方針の理解及び認識の定着を図っている。
運営組織や意思決定機能は、効果的なものになっているか	4	意思決定機能については、各種会議体を構成し、毎週会議を行っている。内容や段階によって効果的な方針決定ができる体制を整えている。
人事・給与に関する規程や制度は整備されているか	4	人事、給与に関する規程は、平成 25 年度の法人統合以降、法人の就業規則並びに諸規程で順次整備されている。
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	導入済みの基幹システムでの情報管理の一元化と、業務の効率化を実施している。Google クラウドを導入し、スケジュール、授業に関する情報共有機能等を図っている。

2021 年度に向けての課題と改善の取り組み

- ・学園全体で導入したクラウド型グループウェアを効果的に利用し、情報共有と業務の効率化を行う。
- ・定常業務を自動化できるシステム導入の検討

(3) 教育活動

評価項目	評価	取り組みの内容
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか	4	教育理念や事業計画に基づき、毎年コースごとに教育課程の編成を実施している。コースごとの方針を共通フォーマットにより全学が共通の認識のもと運営できる体制を整えている。
教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて正しく方向づけられているか	4	コース毎に様々な企業との連携や各種委員会により情報を集約。教育計画会議を通じてコース別育成人材像の方向づけを行っている。
カリキュラムは体系的に編成されているか	4	新たに「デザインプロセスにおける 4 つの能力」の考え方を導入。中でも問題発見力、発想力の強化に努めた。
キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	4	問題発見力、発想力の強化のため全コースで「ヒアリングシート」を導入。客観的に課題を見つけ、解決方法を導き出すためのツールとして授業で使用している。
関連分野における実践的な職業教育（産学連携授業、インターンシップ、実技実習等）が体系的に位置づけられているか	4	社会で必要とされる力を身につけるため、企業と連携した企業プロジェクトを積極的に実施。インターンシップを必修単位として設定し、実践による職業教育を継続している。社会実装強化として、連携企業の拡充と効果的な授業手法の確立を行なっている。
授業評価の実施・評価体制はあるか	4	半期毎に最終授業日に科目別アンケートを実施している。集計後、分析を行うとともに会議にて協議し、各教員へのフィードバックを行うなど授業品質の向上を図っている。非常勤教員を巻き込み外部評価から見えた指導課題を全教員で改善に取り組んでいる。

評価項目	評価	取り組みの内容
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	成績評価・単位認定基準については、全学生に配布する「学生手帳」と「シラバス」に明確に記載されている。採点基準の明確化し、成績評価の平準化した。
資格取得等に関する指導体制は体系的に位置づけられているか	3	資格取得等に関しては、本校では専門学校＝資格取得という考え方を重要視していない。ただし、業界特性等により必要と判断した資格については、授業科目または集中授業により取得に向けた適切な支援を行っている。
人材育成目標の達成に向けての要件を備えた教員を確保しているか	4	毎年策定する教育計画に基づき、求人募集などを通じて確保している。企業ニーズを反映したコースごとの方針に則り、最新の業界情報を踏まえた効果的な教育を実践できる人材を適宜採用している。
教員の指導力育成、職員の能力開発など、教職員の資質向上のための研修等が行われているか	4	年間4回のFD研修を行っている。複数科目で共通の課題を設定することで、科目間の有機的連携を図った。

2021年度に向けての課題と改善の取り組み

- ・シラバスの記載内容の改定とWEB化を行う
- ・幅広い業種・職種で活躍できる汎用的なデザイン思考を育成するための教育プログラムを全コースに導入する
- ・新型コロナウイルス影響下での教育の質保証とハイブリッド型授業の指導力を強化する。

(4) 学修成果

評価項目	評価	取り組みの内容
就職率の向上が図られているか	4	近年96%以上の就職率を維持しており1年次からの総合的キャリアプログラムを構築し、早期からの就業意識の醸成を図っている。また、キャリア教育に焦点を絞った全学共通プログラムの改訂を行った。
資格取得率の向上が図られているか	3	資格取得等に関しては、専門学校＝資格取得という方針は打ち出していない。ただし、業界特性等により必要と判断した資格については、授業科目または集中授業により取得に向けた支援を行っている。
退学率の低減が図られているか	4	募集時の面談とクラス担任制による学生生活支援、入学時の新入生対象共通プログラムを実施。授業の導入学習を徹底し、デザインを学ぶ上で必要な知識、意識を習得をすることで退学率低減に繋げている。
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	担任を通じて学生の取り組みを把握。卒業生は企業訪問時に評価や活躍を把握している。

2021年度に向けての課題と改善の取り組み

- ・新型コロナウイルス影響下での就職支援施策を立案し実行する。
- ・1年次からの総合的キャリアプログラムとして、前期・後期と年2回インターンシップを実施する。
- ・早期からの就業意識の醸成を図るべく、1年後期に企業研究会を実施し企業（社会）との接点を増やす。

(5) 学生支援

評価項目	評価	取り組みの内容
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	1 年次前期より始まるキャリア授業の実施とあわせ、担任制による日常指導及びキャリア担当職員主導による就職相談会の実施など、全体への指導と個別指導を重ねて行っている。あらたに京都芸術大学との連携強化による併願入試制度、特別指定校推薦制度を導入した。
学生相談に関する体制は整備されているか	4	京都芸術大学への編入サポート制度として、入学時のオリエンテーションから定期的な編入準備指導、大学アドミッションオフィスとの更なるサポート体制構築等を図り、併設校の利点を生かした制度設計を行なった。
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	日本学生支援機構奨学金、入学金免除などの他、経済的な事情により学費の一括が困難な場合には、指定の手続きにより分納、延納の対応を行っている
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	学校保健法に従い、毎年 4 月に定期健康診断を実施。また、保健センターを設置し、日常的な健康相談から管理までを行っている。
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	自治会活動の運営目的等を明確化し、定例会議により活動状況の確認を行っている。また、担任教員を通じて課外活動希望を確認し、施設の提供や運営サポートを行っている。
学生の生活環境への支援はあるか	4	担任教員を通じて学生生活における問題を集約し、担任、助手、職員が連携して支援するほか、学生情報を保護者と共有し、学生・保護者・学校の三者体制で密な情報共有を行い、問題解決及び支援を行っている。
保護者と適切に連携しているか	4	保護者との連携については、担任制により、緊密な連携を行っている。
卒業生への支援体制はあるか	3	定期的と同窓会役員との会合を行い、支援体制を検討している。また、転職相談など就職支援は卒業後も生涯サポートとして実施している。

2021 年度に向けての課題と改善の取り組み

- ・過去の事例を参考に学校としての学生支援体制と規定策定を図る。
- ・同窓会組織の活性化を推進し、継続して卒業生支援策を検討する。
- ・社会連携展で「同窓会賞」を新設し、在校生の活躍につなげる取り組みを行う。

(6) 教育環境

評価項目	評価	取り組みの内容
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	学生数の増加に合わせ、施設環境の整備を図っている。感染拡大による遠隔の採用面談が増加したことにより、遠隔対応の防音個別ブースを設置した。
学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	インターンシップ事前学習を実施し、体系的な体制を整えた。新型コロナウイルス影響下により学内型インターンシップの運用を開始。
防災に対する体制は整備されているか	4	防災組織を組み、年に 1 回の防災訓練を実施。避難場所と経路の確認や、役割確認、消火器の使用方法などを実地で訓練している。半期毎での教室整備や点検を行い教育上の必要性に対応できる整備を更に行っている。

2021 年度に向けての課題と改善の取り組み

- ・更なる学生数増加に伴い、教室収容人数や 1 授業あたりの対応可能人数など、複数年度を見据えての調整、計画を法人全体で進めていく。
- ・非常勤講師の都合を優先して計画されている時間割を、教育成果重視及び効率的な施設管理を主体とした時間割に改善する。
- ・学生数増加によるインターンシップ先企業の新規開拓と、新型コロナウイルス影響下による学内型インターンシップを充実化し、整備する。

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	評価	取り組みの内容
学生募集活動は、適正に行われているか	4	対面型の募集活動に代わるオンライン説明会の実施や Web コンテンツを導入実施。新型コロナウイルス影響下でも非接触来校者を増加させた。教職員だけでなく在校生も動員することでより具体的でリアルな学校生活を知る機会を設けている。
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	就職率・進学率等を公開。具体的な就職企業先、業種も提示することで受験生とのミスマッチを防いでいる。
入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	4	願書等の記載事項、高校等での調査書・成績証明書の内容などにより、状況に応じ、個別での面接を書類選考者にも実施。入学前のミスマッチを防ぐために適切に判断している

2021 年度に向けての課題と改善の取り組み

- ・新型コロナウイルスの影響を受けないオンライン説明会の実施とさらなる Web コンテンツの拡充。
- ・非接触出願ルートの再構築。
- ・キャラクターデザインコースの安定的な学生数確保のための募集活動。

(8) 財務

評価項目	評価	取り組みの内容
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	前年度を上回る入学者を確保。適切な予算管理を行い、年間計画を策定。
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	予算、収支計画については、部署ごとに年間計画が策定され、計画的に執行されている。
財務について会計監査が適切に行われているか	4	期末に監査法人による執行状況の監査を実施している。
財務情報公開の体制整備はできているか	4	財務状況を H P で公開している。

2021 年度に向けての課題と改善の取り組み

- ・予算執行の更なる効率化や経費削減が必要である。
- ・新型コロナウイルスへの対応により、想定外の支出と不要になった支出を洗い出し、予算の再配分を検討

(9) 法令等の遵守

評価項目	評価	取り組みの内容
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	京都府・京都市・その他関係機関へ逐次相談の上、逸脱しないよう細心の注意を行い運営している。
個人情報に関し、その保護の為に対策がとられているか	4	当該学生、保護者に対し、あらかじめ文書で利用目的を明示し、利用について同意を得ることを厳守しており、個人情報へのアクセスを制限して漏えいを未然に防止している。
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	授業評価・満足度を図るため、全学生にアンケートを実施。アンケートから抽出した改善点を教職員で共有し、学校運営に反映している。「学校評価ガイドライン」に基づき、自己評価表を公表している。
自己評価結果を公開しているか	4	「学校評価ガイドライン」に基づき、自己評価表を公表している。

2021年度に向けての課題と改善の取り組み

・インターンシッププログラムや社会連携を推進する中で、企業の機密情報を学生が知り得る機会が増加している。機密保持について授業内で指導を行うだけでなく、企業と機密情報や個人情報の取り扱いについての誓約書を交わしている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価	取り組みの内容
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	京都で実施されるスポーツ大会においてテレビ中継のため屋上の貸し出しを行っている。また、施設周辺の清掃や地域住民が利用可能な昼食の販売などを行なっている。
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2	キャリア教育の一環として、地域の中学校より生徒を本校に招き、デザイン業界の職業理解とそれに伴う高等教育機関での学習内容、制作実習といった進路学習を実施している。
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）受託等を積極的に実施しているか	3	自治体との受託開発事業を通して地域貢献・社会貢献等を行っている。2020年はコロナウイルス感染予防のため地域貢献のボランティア活動や公開講座などは行わなかった。

2021年に向けての課題と改善の取り組み

・2020年度はコロナウイルスの影響により、実施を見送った。
 ・次年度以降の授業で自治体との連携や受託案件を拡充させ、地域貢献を行う。

(11) 国際交流

評価項目	評価	取り組みの内容
留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3	同法人である京都文化日本語学校や京都芸術大学、韓国や中国、台湾事務所との連携や情報交換を行うことにより在籍管理及び入国管理の適切な手続きを行っている。
留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	定期的な留学生への説明会、ビザの管理など、学生生活の支援体制を整えている。
留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3	新入生全員（留学生）を対象にオリエンテーションの実施および、コミュニケーション向上を目的とした日本語学習プログラムを実施した
学修成果が国内外で評価される取り組みを行っているか	3	英文での卒業証明書、成績証明書を発行するとともに、GPA 評価を導入している。

2021 年に向けての課題と改善の取り組み

- ・留学生向け日本語学習プログラムについて、より学生のニーズにあった内容を検討。
- ・国外留学生への面談を行うなど、サポート体制を強化。